



2021年12月15日
第678号

1部10円(組合員は組合費に含む)
郵便振替0960-7-117274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka (EWA)
発行人 増田 俊道
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

大阪府定期交渉部活動問題、少人数学級の実現など要求

12月3日、組合が大阪府に要求した2021年定期交渉がエルおおさかで行われました。重点項目のやり取りを報告します。

長時間労働の改善に全く結びつかないどころか長時間労働を助長する変形労働時間制を導入しないこと。

「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」を踏まえ、教職員の時間外労働をなくすこと。

変形労働時間制については、現場からも望む声は上がっていないようですし、府教委もやる気は感じられませんでした。昨年、言い出したフレックスタイムのフの字も出ませんでした。部活問題については、ニーズに応じて、対応と検討、モデルを作って課題を整理、対策は国の指示待ちで、中身の無い返事の繰り返し。



研修でうるさく言われているPDCAは、どこへいったのか？部活動改革はかなりの難題ですが、地域の高校をあてにしているのは方向違いか？Planがないから、Do Check Action もないし、進捗状況も語れない。府教委の皆さんにも評価育成システムはあるのですか？部活担当者の目標を開示してほしいですし、オープンな面談も。お尻に火を付けないと2023年度からの部活動改革全国展開に間に合いま

せん。「働き方改革」が目標ですから、せめて「顧問の強制なし」の浸透に努力を。

「すすくウオッチ」を実施しないこと。

今年度から大阪府内の小学校5・6年生で実施された「すすくウオッチ」について追及しました。府教委が実施するこの新たなテストでは、その他の学力テストとは異なり、児童・教員へのアンケートも含まれています。児童へのアンケートは91問もあり、20分間の想定実施時間では回答不可能、かつ家庭環境についての質問も含まれています。アンケート項目を慎重に検討すべきであると、組合は要求しました。府教委は、現場からも同様の声が届いており、来年度に向けて精査しているとの回答。また、テストやアンケートの集計結果が情報公開されれば、学校の序列化に繋がるという懸念に対して、情報公開するかどうかは市町村教委の判断であるとして実施者責任を放棄しています。

小中学校の支援学級に在籍する児童・生徒数の基準を現状の8名から下げる。またインクルーシブ教育を進めることで原学級の定員を超えないようにするため実態に合わせてダブルカウント(原学級と支援学級の両方で数える)すること。

学級定数の問題は、ひとたびその多人数に慣れてしまえば、日常の風景となります。しかし狭い空間で子どもたち

が詰め込まれる状態が、子どもの人権を軽視し、過労死につながる長時間労働問題の元凶であると認識すれば、組合の重要なテーマです。

①府教委の少人数学級対策は全国最低レベル。小中学校全学年ですでに35人学級を実現している自治体は24府県にのぼります。少人数学級対策を講じることが学力向上の近道なのになぜしないのか？予算がないから、国に要請するという知恵のない回答です。

②各地で進行する支援学級在籍児童・生徒増の対応策は？この5年間で1.5倍の増加率、吹田市でも毎年150人規模で増加している現状に、支援学級定数の改善など自治体独自の対策は？「人員増は出来ない。」との回答。

③支援学級の子どもは通常学級ではカウントしないために定数40人を越える41人以上の過密教室になっています。かつてはダブルカウントしていた対応策の復活は？「人員増は出来ない。」という同じ回答。明らかになったのは先行している府内の多くの自治体に対して、支援すらない府教委の姿勢。これでは学力向上など実現は不可能です。

大阪市立高校の移管に伴い実習助手等の削減を行わないこと

来春に移管が決まっている市立工業高校の実習助手の標準法による配置基準が、府と市で大きなずれがあります。移管による人員削減が行われるのではないかと質問に対して、府教委は府の標準法による配置基準の範囲内である

との回答。その基準数を明らかにせよと迫ると、府のホームページに載っているとしか回答できませんでした。実際、正規、非正規を含めた教員、臨時講師の各校の配置基準に府と市では大きな差があります。また、会計年度職員である非常勤職員は、実習助手を含めて来年度雇用はハローワークに登録し、そこから学校長が選ぶことになり、現在各校に1~2名配置されている臨時講師の雇用継続が見通せない状況です。

ユネスコの提唱するメディア情報リテラシーをすべての学校で実施すること。

ギガスクールで機器を配布すれば何かが進むという大阪府のおめでたい判断に対し、かえって多くの問題を学校に持ち込むことになることを組合は指摘しました。これを解決する重要な方法の一つとして、ユネスコの提唱する「メディア情報リテラシー(MIL)」を全ての学校で実施できるよう早急に準備を進めよと要求しています。Googleを府が導入したのはどのような理由からか？を問うと、「無料だからだ」と信じられない回答。個人情報に対してこのような理解しかないことが、MILを導入すべき理由です。なぜGoogleが無料でソフトを提供するのか？Googleに渡ってしまう個人情報を含む多くの情報を府は把握しているのか、と組合は追及しつつMILの重要性と推進を府に迫っていきます。

(本部執行部)

老朽原発このまま廃炉！関西集会

福島原発事故から間もなく11年たとうとしている今でも避難者の多くが故郷を失い、苦難の生活をつづけておられます。私たちは原子力発電の未来はないことを自覚したはずです。

うつぼ公園に結集した 労組と市民団体



2012年改定の原子炉等規制法で「原発の運転期間は例外を除いて40年」と規定しました。それでも、関電と政府は、運転開始後45年を超える危険極まりない老朽原発・高浜1, 2号機、美浜3号機の運転を画策しています。老朽原発の地元、福井県若狭町・小浜市住民や関西の市民団体、おおさかユニオンネットワークに結集している労働組合などの1600人も参加者が12月5日、うつぼ公園に結集し、それぞれの現状報告と廃炉に向けての決意をア

ピールしました。

プレライブと難波までの サウンドデモ

反原発集会の特徴は、若い市民が多彩ないで立ちで参加する明るさと、音楽で歌い踊る楽しさです。この集会が始まる前、川口真由美さんやカオリンズとともに、私もトラックの荷台につくられた舞台上歌わせてもらいました。集会の後には、御堂筋を南下して難波までデモをしたのですが、大阪の部隊はSWING MASAさんをはじめとした「ロックアクション」で鍛えられたメンバーが演奏する中で、「賄賂（ワ

イロ）より廃炉（ハイロ）」などの切れの良いコールが響き渡りました。街中のスケボーに乗った若者たちも思わずデモに加わってくれました。

原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会の実現を！

政府は、炭酸ガス排出削減を口実にして、原発の60年運転の推進を掲げるだけでなく、80年運転への道を開こうとしています。この策動を葬り去るためにも今が正念場です。「老朽原発このまま廃炉」を勝ち取りましょう。

増田俊道（執行委員長）

文化おちこち (240) ウイルスふもやま話

(9) オミクロン株の動向

10月、11月の安寧の日々で前号の本欄は休載としたが、11月末の南アフリカに始まる新たな変異株、オミクロン株が出現してその動向が懸念されている。現時点までの情報では、同株はデルタ株の3倍にもなる30箇所のアミノ酸変異がスパイクタンパク質に見つかり、これによってさらに強い感染力と免疫回避力を獲得してワクチン3回摂取者にも感染している。一方、感染者が重症化することは殆どなく、オミクロン株の感染による死者はまだ報告がない。

病原体が体内に入ってくると、抗体が体液中に産生されて病原体に結合して不活化する。これを体液性免疫というが、抗体は細胞内に入ることはできないので、細胞内で増殖するウイルスに抗体は働かない。ウイルスに感染した細胞を殺してしまうキラーT細胞によって、ウイルス感染した細胞ごと殺してしまうのが細胞性免疫で、細菌や真菌には体液性免疫が、ウイルスには細胞性免疫が免疫の中心的役割を果たす。外部から入ってきたウイルスが細胞に感染するまでは抗体の働きで防御できるが、

細胞内で増殖するウイルスには抗体は効果を及ぼせず、細胞性免疫によるウイルス感染細胞の除去に依ることになる。オミクロン株は抗体が結合するスパイクタンパク質に多くのアミノ酸変異を起こし、ワクチンで誘導される抗体の効果が低下して感染を起こすが、細胞性免疫はまだ効果が残存して重症化を阻止していると考えられる。

しかし、いずれは細胞性免疫の方も効果のない新たな変異株が出現することは必至であるが、現行のRNAワクチンは、これまでの不活化ワクチンのようにウイルスの大量生産を必要としないから、極めて迅速に新たな変異株に対応可能である。一方で、オミクロン株がワクチン摂取率の著しく低いアフリカから出現したことは、全世界的にワクチンを行き渡らせてCOVID-19を抑え込むことの必要性を示している。丁度、残り火が風に煽られて再燃するように、ワクチンが普及しない開発途上国で新規変異株が出現して、それが世界に広がりパンデミックを再発する。ワクチンを全世界的に普及することは、単に途上国援助というだけでなく、COVID-19の制圧に必須である。

(新撰組21)

結審いよいよ判決に！

11月18日高裁で第2回控訴審が開催され、組合員である控訴人たちが求めていた証人採用は行われず、結審しました。傍聴席を越える結集で多くの組合員が控訴人たちを支えました。不当なパワハラと解雇撤回を求めている組合員たちを、逆にパワハラをしていたとする大阪府に対して、組合員たち控訴人はていねいな準備書面で反論したことは先の号で報告した通りです。

校長が5名の非常勤看護師に突然「1名を常勤化したい。希望する人は1月中旬までに考えておくように」と言いつつ2名を秘密裏に常勤化すると決めて口止めまでし、それを隠したまま控訴人2名の非常勤看護師に突然「雇い止め」を通告した、この行動こそその後の看護師間の軋轢を生んでいく原因でした。また、校長が常勤化の理由とした「呼吸器の子の保護者付き添いを外す」に対し、看護師としての専門的知見に基づいて正しい意見を述べた控訴人らが、佐野校長ら管理職から嫌われ、疎まれて、本来の看護業務から外され、職員室の片隅に隔離され、ベルマークの整理作業に従事させられたうえ、雇い止めという形で職場を追われたのです。判決は2022年1月28日(金)13時15分、高裁83号法廷です。結集を！

五十里元子（書記次長）

当面の日程

- 12月18日(土) 14:00~16:30
エルおおさか 本館6階大会議室
教科書全国集会2021
- 1月1日(土) 10:00~
労働組合つぶしの大弾圧を許さない
元旦行動 大阪府警本部前
- 1月7日(金) 18:30~
支部代 & 旗開き
- 1月11日(火) 10:00~
京都西山学園事件審問(要傍聴)
申立人側2名 40分×2



アジア太平洋戦争の日米開戦から80年▼この時期になると掲載される新聞記事も我々戦後世代には二度目の報道が多

い▼終戦直後に、昭和天皇以下、全国民が「一億総懺悔」で済ましてしまった戦争責任▼戦争責任の検証こそ、世代を超えて何度でもなされるべきもの